

# 茨城大学学報

第290号

平成22年4月～平成22年5月



本部事務局前の噴水

## INDEX

- ◆ 平成 22 年度茨城大学入学式
- ◆ 事務支援室を設置
- ◆ 新歓祭を開催
- ◆ 役員らによる一般教養講義を開講
- ◆ 静宜大学(台湾)の訪問団が来学
- ◆ 中期計画講演会を開催
- ◆ ペーパーレス会議を導入

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 平成 22 年度茨城大学入学式

平成 22 年度茨城大学入学式は、4 月 6 日（火）県武道館において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出に続き、池田学長から各学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計 2, 264 名に対して入学が許可されました。さらに、学長式辞、来賓祝辞、役員・部局長等の紹介と続き、入学生総代、人文学部の堀田可奈子さんより宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉会となりました。

### ◇平成 22 年度入学式学長式辞

茨城大学長 池田幸雄



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。茨城大学を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、ご両親をはじめ、ご家族ご親類の皆様にも、謹んでお祝いを申し上げます。本日、平成 22 年度の入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えできましたこと、私達教職員一同は大変喜んでおります。皆さんご自身も晴れやかなお気持ちで一杯のことと思います。

さて、茨城大学は、昨年、創立 60 周年を迎え、記念行事として、「茨城大学憲章」の制定をいたしました。この大学憲章は、茨城大学の全教職員と学生達の知恵を結集して策定したもので、茨城大学のあるべき姿を描き、茨城大学の行くべき方向を照らしたものでございます。この大学憲章には、茨城大学の 4 つの基本方針が示されています。このうち、皆さんに最も深く関わるのが教育基本方針ですので、これについて皆さんにお話をしたいと思います。

この大学憲章の教育基本方針には、「人類の文化と社会や自然についての理解を深め、高い倫理観をもち、持続可能な社会と環境の担い手となる市民を育成します」と謳っており、茨城大学の使命を高らかに宣言しています。この場合、ここで述べている「市民」とは何であるかについて十分な理解が必要です。大学憲章でいう「市民」とは「21 世紀の社会に適格に対応でき得る人々」の意味で、「21 世紀型市民」というべき人々です。この「21 世紀型市民」を育てるのが「21 世紀型教育」です。それでは、「21 世紀型教育」とは一体何でしょうか。

20 世紀では、日本は先進国に追いつき追い越せを目標として狭い専門分野の教育をひたすら行ってまいりました。創造性や柔軟な思考力よりも、むしろ狭い専門分野のスペシャリストの育成に重点を置き、先進国からその知識や成果を効率的に吸収することが重要でした。これが「20 世紀型教育」です。

しかしながら、21 世紀では、日本は既に先進国に追いつきましたので、従来の「20 世紀型教育」では不十分になりました。21 世紀の世界最前線では、物まねの知識では通用しなくなり、常に新しい科学技術を生み出していく必要に迫られています。特に高度な専門家は創造性や独創性が必要不可欠です。しかしながら、21 世紀の一般市民にとって、専門家と同じような知識や独創性が必ずしも求められる訳ではありません。それでは、「21 世紀型市民」には何が必要でしょうか。

21 世紀の世界の特徴は、社会の変化が大変速いことです。21 世紀では 20 世紀よりも遥かに速いスピードで社会が変化し、世界は急速に発展し続けるでしょう。具体的には、最近のテクノロジーがわかりやすい例です。20 世紀には専門家が主に使っていたコンピューターは、今や各家庭でパソコンとして広く利用されています。また、携帯電話が 21 世紀になって世界中に普及し、日本では公衆電話がいつの間にか消えてしまいました。自動車も最近ではハイブリッド自動車や電気自動車が普通に見られるようになりました。このように、最近のテクノロジーの発展は日進月歩ですが、21 世紀の社会では、ほとんど全ての分野で急速に変化しています。



したがって、「21 世紀型市民」は急速に変化する社会に相応しい市民でなければなりません。「21 世紀型教育」は、この激動する社会に適合し活躍できる人材を育てることを意味します。広い知識と柔軟な思考力を持った人材でなければ、激動する 21 世紀の社会にうまく対応できません。ところで、あなた方は高校時代に自分自身を理系や文系の枠にはめ込んでいませんか。その枠に無理やりはめ込めば、それは「21 世紀型教育」と矛盾します。しかし、まだ遅くはありません。大学に入学後は、理系・文系の枠から自分自身を解き放ち、強い好奇心を持って、ほかの分野の世界を覗き込んでみてはいかがでしょうか。新たな発見があるかも知れませんし、また、広い分野に関心をもつだけで、あなた方は 21 世紀型市民の資格を獲得できるでしょう。

しかしながら、現在は21世紀になってからまだ10年しか経ておらず、大学の教育は「20世紀型教育」と「21世紀型教育」が混在しているのが実状です。現在は大学教育の過渡期にあたり、各大学とも時間をかけて21世紀型へと教育を転換していくことになります。茨城大学は、「21世紀型教育」を積極的に推進し、あなた方の期待に応えたいと考えております。皆さんは明日から4年間の大学教育が始まります。その際、あなた方は茨城大学の大学憲章にのっとり、「21世紀型市民」となることを目指し、21世紀の激動する社会で活躍できる人材となれるよう、皆さんも努力をしていただきたいと思います。



さて、最近の学生は学力が低下しているといわれております。大学は既に全入時代を迎えていますので、学生の学力が低下するのはやむを得ません。しかしながら、学力の低下はそれほど心配する必要はありません。学力が低いのは、高校生までの間に勉強意欲があまり高くなかったからにほかなりません。大学で勉強意欲を引き出せば、学力の低下はすぐに挽回できます。茨城大学には、多種多様な授業が多く準備されていますので、これらの中から、何か面白いものを見つけてください。面白さが見つければ、勉強意欲はおのずと湧いてきます。この勉強意欲こそがあなた方の能力を引き出し、大きな成果をもたらすでしょう。あなた方が卒業する頃には、十分な実力が備わっていることを私は信じております。あなた方は理系や文系に拘らず、広く学習し、「21世紀型市民」として成長することを心から期待しています。

最後になりましたが、茨城大学での学園生活を通じて、あなた方の青春を大いに楽しんでいただきたいと思います。人生において、大学生の時代が最も自由で、しかも実り多き充実した時代です。大学生になれば自由に行動できますが、同時に責任も伴います。大学では、あなた方の自主性を尊重いたしますが、社会はあなた方に倫理的責任を厳しく求めるでしょう。自分自身で物事を決定し、他人に迷惑を掛けないよう十分な配慮をしながら、行動しなければなりません。このことを強く自覚して、茨城大学での大学生活を十分に楽しんでいただきたいと思います。

最後になりましたが、茨城大学での学園生活を通じて、あなた方の青春を大いに楽しんでいただきたいと思います。人生において、大学生の時代が最も自由で、しかも実り多き充実した時代です。大学生になれば自由に行動できますが、同時に責任も伴います。大学では、あなた方の自主性を尊重いたしますが、社会はあなた方に倫理的責任を厳しく求めるでしょう。自分自身で物事を決定し、他人に迷惑を掛けないよう十分な配慮をしながら、行動しなければなりません。このことを強く自覚して、茨城大学での大学生活を十分に楽しんでいただきたいと思います。

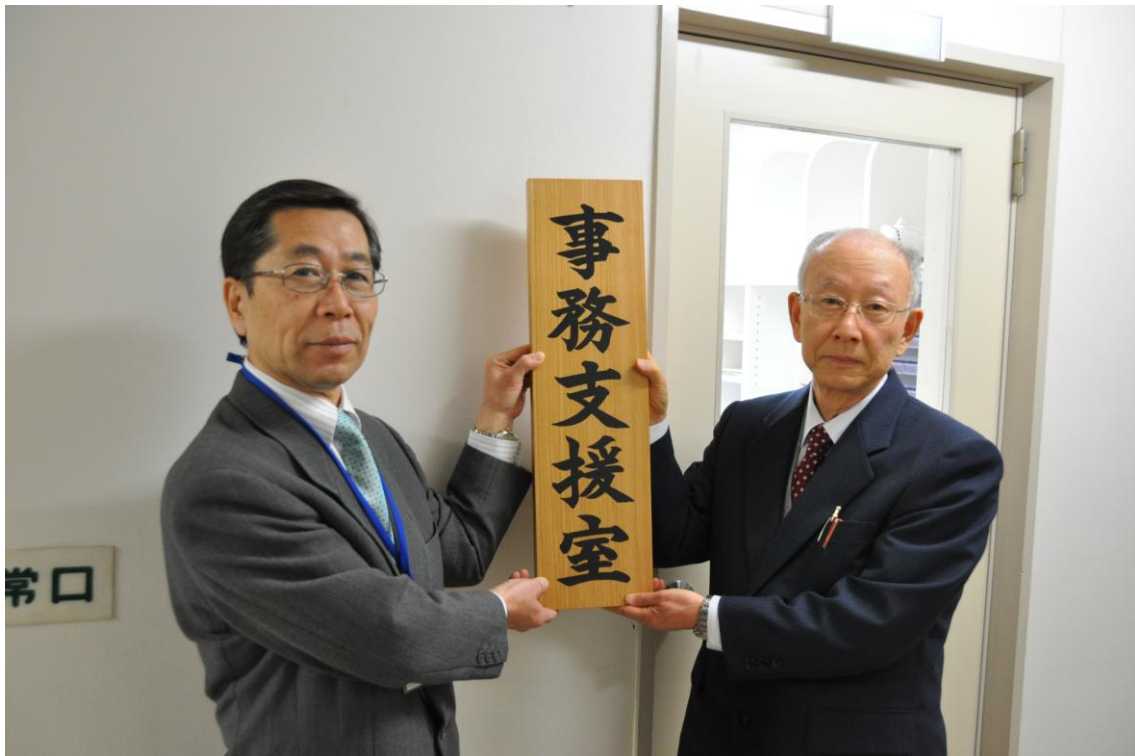
本日は、ここに新入生の皆さんのご入学を歓迎し、これからの皆さんの健全な成長を心から願って、私の式辞といたします。本日は本当におめでとうございます。

## ◆ 事務支援室を設置

本学では、事務系職員の定型的業務、季節的業務を軽減し、専門的能力を発揮できるようにするとともに、継続雇用制度を有効に活用することを目的として、本年度より事務支援室を設置しました。

継続雇用職員はシニアスタッフと呼ばれ、その業務は豊富な知識、ノウハウを活かした専門的業務や学内の様々な支援業務など、多岐に渡っています。

職員数が減少し、アウトソーシングや事務軽減にも限界がある中、長年蓄積された専門知識・業務経験に基づいたシニアスタッフの活躍に、大学側は大いに期待しています。



事務支援室の看板を掲げる池田幸雄学長（右）と山本恵一事務局長（左）



事務支援室職員に説明を受ける池田学長と山本局長

## ◆ 新歓祭を開催

平成 22 年 4 月 10 日（土）、水戸キャンパスにおいて平成 22 年度新歓祭が開催されました。新歓祭は、学友会が主催する新歓企画実行委員会の運営によって毎年開催されているものです。構内に設置された、施行を凝らしたサークル紹介の看板が雰囲気盛り上げるなか、バンドステージや路上パフォーマンス、体験コーナーなどに多数の新入生が興味を示していました。



新歓祭の様子（学生センター前）



展示物を楽しむ学生

## ◆ 役員らによる一般教養講義を開講

本学では、新1年次生を主対象とした一般教養科目の一環として、本学初の試みとなる学長・副学長をはじめとする茨城大学役員による一般教養講義を開講しました。この講義は、現代社会において、今日どのようなことが問題となっているか、本学がどのような地域貢献を行っているか等を理解してもらうことを目的としています。

第2回目は、4月20日（火）に水戸キャンパス講堂で行われ、池田幸雄学長が「隕石と惑星と生命」という内容で「火星に生命は存在するか？」を主テーマに、一人一人の学生に問いかけるように、分かりやすく熱心に講義しました。履修している188名の学生は、池田学長の言葉を聞き逃さぬようメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。

全15回、オムニバス方式で行われる本講義は、次回以降、副学長や学長特別補佐、各学部長がそれぞれの研究テーマをもとに講義する予定です。

大学側は、大学の中核である役員らと学生が、講義を通してコミュニケーションを図ることで、より身近な存在と認識してもらえないかと期待しています。



講義を行う池田幸雄学長

## ◆ 静宜大学（台湾）の訪問団が来学

5月13日(木)、本学の協定校である静宜大学（台湾）の訪問団（総務長兼副学長の黄延君氏他4名）が、水戸キャンパスを来訪しました。

台湾の台中県にありカトリック系の私立大学である静宜大学は、平成21年9月に本学との間で学生交流協定が締結され、今年度から短期交換留学生の交流が開始されました。訪問団は、学長室において、池田幸雄学長と会談した後、水戸キャンパスの施設を視察しました。今回の訪問は、今後の相互交流の発展に向けた貴重な意見交換の機会となりました。



左から静宜大学の曾煥棋氏、鄧嘉宏氏、池田学長、黄延君氏、邱惠娟氏



## ◆ 中期計画講演会を開催

5月19日（水）、理学部インタビュースタジオ（日立キャンパス及び阿見キャンパスはテレビ会議システムにて配信）において役員、教職員（特に報告書執筆者）を対象として、元本学副学長・評価室長の田切美智雄氏を迎え、「第2期への提言－向上をめざして」と題した中期計画講演会を開催しました。

講演では、本学が作成した平成16年から19年度までの中期目標の達成状況報告書と各学部・研究科が作成した現況調査表（教育・研究）に基づく評価結果について、他大学の高い評価結果を得た取組みの詳細な分析結果と対比することにより、本学の教育や研究の取組みの問題点や改善点を抽出し、本年6月末に提出する平成20、21年度中期目標の達成状況報告書や現況分析における顕著な変化についての説明書（教育・研究）、学部・研究科等の研究業績に反映させ、確定評価において評価結果を上げえる取組みをどう報告するかについてお話しがありました。

学長をはじめ役員、教職員など65名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。



中期計画講演会の様子

## ◆ ペーパーレス会議を導入

本学では、ペーパーレス化促進の第1段階として、事務局棟内にある会議室に無線 LAN アクセスポイントとパソコンを設置し、会議資料のペーパーレス化の促進を図りました。

第1回目となった5月20日（木）の教育研究評議会において、参加者たちは取扱説明を受けると、一斉にパソコンから共有ファイルサーバに保存した資料にアクセスし、確認を行いました。大きな混乱はなく、会議は順調に進みました。

このペーパーレス会議の導入により、資料作成に係る複写経費、紙料金の大幅な削減が見込めるほか、人的労力、作業時間の短縮も図れるなど導入のメリットは非常に大きいものです。また、かねてより懸案だった紙資料廃棄処理業務の軽減や資料保管スペースなども削減できる見込みです。

大学関係者は今後もペーパーレス会議により、会議運営方法の改善や会議時間の短縮などにも反映できると期待しています。



パソコン画面上での資料確認を行う池田幸雄学長